カエデ
kaede
2015 1 JAN. Vol.82
NPO法人ガーデンを考える会　会報

今月のコラム

消費には理由が必要

NPO法人ガーデンを考える会
会長　水野　隆

アベノミクス効果を高めるため、様々な施策が考えられていますが、増税によるマイナス要因もあり、なかなか園芸業界までには恩恵が届いてはいないようです。今年の春には大企業を中心とした給与のベースアップが実施される予定で、この流れは他の多くの企業に波及することが期待されています。実質賃金が増加すれば消費が刺激され、景気全体はプラスに押し上げられるでしょう。これによって、長くて暗いトンネルから抜け出し、園芸業界にもやっと明るい光が……。

最近の消費行動は大きく変化し、たとえ安くとも必要のないものにお金を使わない「賢い消費者」になってきたといわれています。我々が生活する上に無くてはならない生活必需品に対し、園芸商品に類するものは「嗜好品」と呼ばれ、世の景気によって需要が左右されてきたと思われていました。日本の景気が上向けば、比例して園芸需要もそれなりに伸びてくるでしょうが、果たしてどうでしょうか。

ここ30年の園芸消費について考えてみるとヒントがありそうです。観葉植物ブームやイングリッシュガーデンブーム、サンセベリアブーム、家庭菜園ブーム、等々、それぞれには消費に繋がる明確な理由がありました。ブームとはいかないまでも、消費者が買う理由があると認められれば、例え生活必需品でなくとも売れるはずです。勿論、園芸には「美しさの鑑賞」、「和み安らぎを与える」、「作り食べる楽しみ」、等々の本来の価値が沢山あるのですが、現代の消費者には、「今までには気づかされていなかった」更なる付加価値を与えないと、消費には結びついてはくれない難しさがあるのです。

「今までには気づかされていなかった」付加価値とは何でしょうか。例えば今春から野菜の食品表示が緩和され、機能性を謳えるようになる予定です。同じものを食べるのであれば、より栄養価の高いものや、今までには含まれていなかった健康成分を含有する高機能の野菜が選択されるはずです。家庭菜園でも、例えばトマトの栽培であれば、より栄養価が高くて高機能の品種を作ってみたくなるはずです。

室内で楽しむ鉢花に芳香剤のような効果や消臭剤のような効果があるとすれば、消費者はこぞって鉢花を求めるでしょう。例えそんな品種の育成が困難であったとしても、そのような機能を付加した用土や肥料、パッケージや容器を組み合わせれば、消費者が期待する商品ができない訳ではありません。

以前、有名キャラクターとコラボしたパンジーが大いに売れました。世の中には人気のキャラクターにくっつけた様々な商品が溢れています。ライセンス料等の事もあり、余程量的に販売できるものでないと園芸では難しいかもしれませんが、単に品種に捉われずに、大き目のカテゴリー分類したものをキャラクター化すればできるかもしれません。

我々が係る業界では、需要拡大に繋がる様々な取り組みがなされています。イベントや制度の整備も大事ですが、基本は商品力ではないでしょうか。我々が一消費者として、思わず買いたくなるような商品を提供し、園芸による新たなライフスタイルを提案できれば、再び脚光を浴びる花型産業になることも夢ではありません。

花と緑のおもてなしプロジェクト報告②

夏花壇撤去のサツマイモは近所の人たちに配布
春に向けてはワイルドフラワーのタネを播種

芋づるの撤去作業

撤去後にはスタンディングコンテナガーデンの間にワイルドフラワーのタネをまいて終了

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて展開中の「花と緑のおもてなしプロジェクト」、6月に植栽したおもてなし花壇を11月5日の理事会後に、理事メンバーを中心に撤去作業及び春に向けての準備を行いました。

スタンディングコンテナガーデンの下には、グランドカバーとして味がよいことで知られる安納芋、紅あづまなど4品種のサツマイモを植えていました。栄養（肥料）たっぷりに育ったサツマイモのつるは見事に育ち、想定を超える量の芋づるに急きょ、処分用の袋を買いに行ったりしましたが2トントラック1台分にもなった芋づるは、フラワーオークションジャパンのトラックで搬送、処分していただきました。撤去後には、タキイ種苗より協賛いただいたワイルドフラワーのタネをまき、春花壇に備えています。

また、サツマイモも収穫しました。収穫した芋は、撤去している花壇に来られた近所のマンションに住まわれている人たちに配られましたが、採りたての野菜（芋）がプロ（理事）との会話をしながらもらえたとあって大変喜ばれ、理事の間では「こんなに喜んでもらえるなら、次回はほかの野菜にしてはどうか」などと盛り上がりました。

また、30本のデザインコンテナを使ったスタンディングコンテナガーデンの花もマドカやパンジーなど会員協賛の花に植え替えました。（事務局）

2015年関西ブロック勉強会、2月18日、大阪駅前で

テーマ「園芸業界の活性化キーワード（仮）」

■日　時：2月18日（水）14：00~16：40
■講　師：高田　昇氏
（立命館大学工学部教授 COM建築設計代表）
パネルディスカッション（植物、資材、設計施工）
■会　場：大阪駅前第3ビル会議室
■参加費：3000円（会員）
■募集人員：60名
■申込み先：ガーデンを考える会事務局（別途、申込書あり）

「ガーデントライアル2015」開催見送りのご報告

ガーデントライアル2014実行委員会実行委員長 **中島吉之**

「ガーデンを考える会」では、毎年九月に山梨県北杜市のフィオーレ小淵沢で「ガーデントライアル（新商品展示会）」を開催してまいりました。事業開始から5回の会を重ねる事ができ、これも偏に会員の皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、次年度秋の展示会について、山梨県北杜市フィオーレ会場開催に向けた継続協議を「フラワートライアル実行委員会」と共に行なって参りましたが、結果として「ガーデンを考える会」は同会場での開催を中止し、会として新たな方向性を探る事を決めさせて頂きました。

会員の皆様方におかれましては、謹んでご報告申し上げますと同時に、長年のご尽力への感謝と併せまして、ご理解ご協力いただけます様よろしくお願い申し上げます。

尚、今後の具体的な取り組み内容に付きましては、会の目的でもあります園芸業界活性化への貢献と、会員様のためになる取り組みを目指します。

追記 例年通りフィオーレ会場にて出展をご希望の方は、フラワートライアルジャパン事務局にお問い合わせください。
フラワートライアルジャパン事務局（株式会社グリーン情報内/山川・村岡） Tel（052）571-2200 Fax（052）571-2208

日比谷公園ガーデニングショー

「まちなみつなぐ花とみどり」テーマに開催

都心のオアシス、日本初の近代的な洋風公園である日比谷公園を中心に、東京丸の内一帯を花と緑で彩るイベント「第12回日比谷公園ガーデニングショー2014」が10月18日（土）~26日（日）にかけて、「まちなみつなぐ花とみどり」をテーマに開催された。

ショーの中心となったガーデンコンテストでは、まちなみをつくる物語ある庭を提案する「ガーデン」、身近な自然と暮らしを楽しむ提案の「ライフスタイルガーデン」、花や植物のコーディネイトを楽しむ「コンテナガーデン」、彩り豊かな個性が光る「ハンギングバスケット」の4部門の作品が展示され、いずれも高い技術力で道行く人の足を止めていた。また、ガーデナー女子必見の「ガーデニングファッションショー」と、今どきの造園家のためのおしゃれな「新しい造園ユニフォームのファッションショー」にも関心が高く、多くの見学客がつめかけ盛り上がった。

向こう三軒両みどり」（富士植木）

カラフルなウェアでおしゃれ園芸を発信した「ガーデニングファッションショー」

最高の花に贈る――日本フラワー・オブ・ザイヤー決まる

ジャパンフラワーセレクション実行協議会は、ジャパンフラワーセレクション2014～2015の審査を行い、70品種を業界から推奨できる品種として、JFS受賞品種に選定した。さらにその中からフラワー・オブ・ザイヤー（最優秀賞）などを決定したが、鉢物部門ではばら園芸のシクラメン「里山シリーズ‘まほろばの里’」、ガーデニング部門ではエム・アンド・ビー・フローラのベゴニア「ワッパー　レッドブロンズリーフ」がそれぞれ最優秀賞を受賞した。

シクラメン「里山シリーズ‘まほろばの里’」

ベゴニア
「ワッパー　レッドブロンズリーフ」

屋内緑化研修会を名古屋で開催

屋内緑化推進協議会

昨年7月に設立された屋内緑化推進協議会は、11月18日、名古屋市千種区にあるnonoha千種ビルにおいて「屋内緑化の価値を現場で学ぶ」見学・研修会を開催した。

同ビルは㈲アコールプラン所有の貸ビルで、築20年経ってリニューアルするに際し、「ビルの価値を高めるために緑化を採用した」（佐久間オーナー）と言い、入り口正面のエントランスに壁面緑化を新設するとともに屋上庭園と外壁の壁面緑化も同時に採用した3点セットの緑化ビル。

屋内緑化は、高さ2.6m、幅4.5mの約12㎡で、東邦レオの「ピクセルライト　自動灌水付」システムを採用。デザイン的には、オーナーの意向から落ち着いたグリーンになっており、使われている観葉植物はカポック、プミラ、スパティフィラム、ドラセナコンシンネ。

nonoha千種の屋内緑化前で東邦レオの担当者から説明を受ける

2015 1 JAN. Vol.82
NPO法人ガーデンを考える会　会報

kaede（カエデ）

滋養の宝箱

角田ナーセリー　三宅　達也

《￥1.177.125-　54750本》

私がもし3年前に“たばこ”をやめていなかったら……3年間喫煙したとして、ざっと計算しただけでもこのような数字で表されました。（1日2箱半のヘビースモーカーでした。）

とあるきっかけで弊社社長に禁煙宣言をした後は“ランニング”と“12kmの自転車通勤”でニコチン中毒を克服。体の軽さに喜びを感じたまでは良かったが、そこからが問題。スポーツジムに通い始め、プロテイン摂取、気づけば自宅に増えている重量プレートの数。当初55kgだった体重が75kgと20kg増量。

アパレル時代に買ったまあまあ値の張る服が着られなくなる事に“喜びを感じている”今日この頃。冒頭記述の浮くはずのお金は、結局筋肉が付くほど浮かず仕舞いとなっております。

私の“健康”はさておき、世間の健康に対するニーズはメディアの露出と煽りが増えるほど高まっているようです。現在健康食品関連の市場規模は7113億円規模（前年比103%・13年矢野経済研究所データ）といわれており、年々増加傾向にあるデータとなっております。ものの記述によれば、現代における健康は、“何かを成し遂げる手段”では無く、“健康自体が目的”となっているようです。この健康になる為の手段としての“健康ブーム”に対して、角田ナーセリーが企画化に取り組んだのが、『滋養の宝箱』です。“雲南百薬”“チシャトウ”“旨わさび”“カボチャdeナッツ”の4アイテムからなる企画は、それぞれが健康に対する高機能性を維持しつつ、“一般消費者が育てやすい”というコンセプトで“食べて美味しい”“育てて楽しい”“体にやさしい”の三位一体の構成となっています。現状の商品ラインナップではまだまだ、“健康ブーム”と外売場を一般消費者に結びつけるには難しいですが、今後少しでも消費者の“買う気”に結び付けるような企画に発展するように育てていきたいと考えております。

『滋養の宝箱』4アイテム

会員紹介

㈱伊藤商事

昭和47年（1972）設立。1990年の大阪花の万博を契機に、カセット式立体花壇、スリット式ハンギングバスケット等、過去に例の見ない、ユニークな装飾園芸システムを次々に開発、商品化した。海外のイベントや街の花飾りにも多数採用される等、立体花壇分野では知る人ぞ知る世界のパイオニア的な存在である。

ごく最近では、屋内向けの壁面緑化システムの開発、商品化に成功し注目を浴びている。昨年7月に設立された「屋内緑化推進協議会」の立ち上げに参画し、同分野の普及にも尽力している。育てる飾るという従来の園芸だけでなく「植物が持つ様々な効用」を切り口にして「花緑と人との新しい接点を形にする…」という部分で、具体的な形になったもののひとつにオフィス緑化がある。現在、世界の主要国に国際特許を申請中で、日本の新しい技術として普及が期待されている。

HP：http://www.itoshoji.co.jp/